

令和7年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」 振興奨励賞受賞団体の活動について

本年度の「あしたのまち・くらしづくり活動賞」の振興奨励賞は20団体が受賞しました。各団体の活動概要を紹介します。

●子育てシェアスペースOmusubi(宮城県)
認可外保育施設・コワーキングスペース・



子育てシェアスペースOmusubi



仙台市松陵生活学校



奥川地域づくり協議会



大木戸台シニア支援の会

シェアハウスの3機能を併せ持つ場所である。震災後で失われた子育て支援拠点を子育て世代自らがつくり出そうと空き家をリノベーション。子連れで出勤する保育士が安全を守りつつ、ボランティアを行った分だけ預けられる「一時預かり専門託児所」が中心となっている。さらに子育ての疲れを癒

す「ママのリラックスマール」、これから子育てをする女性向けの「シェアハウス」も併設している。

●仙台市松陵生活学校(宮城県)

少子高齢化が進む現代、誰もが迎える老いに負けずに元気に住み続けるための活動。東日本大震災の後、ひきこもりをなくし健康に楽しく過ごすため、ランチ付きの高齢者向けサロン活動を開始した。参加者からの希望で、夏休みに子どもも一緒に参加させたいと「子ども食堂」が平成28年にサロンから独立して始まった。子ども食堂を通して大人が地域の子どもの成長に関わっている自覚が高齢者の生きがいにもつながっている。

●奥川地域づくり協議会(福島県)

福島県西会津町奥川地区では、深刻な高齢化と人口減少に直面する中、住民主体の「奥川地域づくり協議会」が発足。都市部の学生や社会人を受け入れる「人足ボランティア」やアート・教育機関との連携を通じ、関係人口を創出している。地域と外部が共に過ごし、共に考える“未来型「結」を育み、持続可能な地域づくりのモデルを実践中。

●大木戸台シニア支援の会(千葉県)

同会は千葉市でも高齢化率の高い地域(約52%)にある。主な事業は助け合いと見守りであり、志願したボランティアが特技を活



昭島市コミュニティ協議会「まちづくり昭島北」



北柏楽しいことやっちゃおうプロジェクト



特定非営利活動法人 子育てママ応援塾ほっこりーの



学園町自治会

かし、庭作業、ゴミ出し支援、髪の訪問カット等依頼者の気持ちに添った活動を行っている。買い物支援事業は、社会福祉法人うぐいす会との協力でやっている。団地内の大木戸第一公園集会所を拠点とした、自主防災会「たすけっと」への協力を行っている。

「ふれあい喫茶虹」は高齢者や若い世代の住民の交流の場として、将来に向けた取り組みをしていく。バス路線が廃止となったが、自分たちの町は自分たちで創る。住民が安心して住み続けられる町づくりを目指して活動を進めている。

●北柏楽しいことやっちゃおうプロジェクト ト千葉県

「北柏」地域の価値を上げるために立ち上がったエリアマネジメント団体。地域の価値を引き上げるミッションのもと、イベントの企画、アイコンとなる場所の開拓や整備、地域課題にフォーカスした企画、アンケート等によるセンサス、人と人を結ぶ企画などを実施し、また地域の町会や他の市民活動団体、行政とも協働をすすめながら「楽しく」街のあり方を提案している。

●学園町自治会（東京都）

武蔵野の自然と歴史ある景観を守り、世代を超えて安心して暮らせる住宅地を維持するために、憲章の運用、地区計画の検討、講演会や勉強会、緑化活動、住民交流の場

づくりを行っている。住民主体でまちの価値を高め、次代に引き継ぐ取り組みを進めている。

●昭島市コミュニティ協議会

「まちづくり昭島北」（東京都）

平成22年に、地域の防災力向上と生活環境の改善、安全で安心なまちづくりを目指して結成された。11～15階建てのマンション群に3350世帯・約7000人が居住し、5自治会、3管理組合、店舗会で構成されている。防災活動としては、防災隣組の構築や、隣接する中学校との合同防災訓練を13年間継続して実施している。また、全国各地の被災地を訪問し、その教訓や防災知見を地域内に還元している。コミュニティ活動としては、夏まつり、運動会、ペタンク大会、「3・11を忘れない・まち歩き」などを開催している。これらを通じて、発災時を想定した集団行動、チームワーク、リーダーのスキル向上に注力している。

●特定非営利活動法人

子育てママ応援塾ほっこりーの（東京都）

子育てが「孤育て」にならないようしっかりと立ち寄ることができ、授乳、おむつ替え、おしゃべりが無料でできる「ママによるママのための共助拠点」として民営子育てサロンを創業し、地域の子育て中の母親たちの居場所作りを15年近く取り組む。産後



労働者協同組合甲南げんき村



医療的ケアを必要とする児童に対する就学支援の拡充をめざす会



特定非営利活動法人奥播磨夢倶楽部



みせるばやお

デイケアや子ども連れでも参加OKな講座の開催や、同じ悩みを持つ母親同士が繋がる場を作ったり、子どもがいても就労を諦めることがないような働き方を支援する環境作りにも注力している。

●医療的ケアを必要とする児童に対する就学支援の拡充をめざす会(大阪府)

医療的ケア児も健常の児童生徒と同様の教育環境に参加することができ、その保護者や家族も豊かな社会生活を営むことができる社会の実現のための活動を、大阪府茨木市を拠点に行っている。活動内容として、①医療的ケア児の特別支援学校への通学方法の確立、②特別支援学校における人工呼吸器を使用する児童・生徒への、保護者の常態的な付き添いの廃止。医療的ケア児の就学に関する当事者の声を集約し、医療的ケア児に関わる様々な職種の視点から現状の問題点と改善策を検討し、行政機関に届けるため活動を行う。また、医療的ケア児への啓発活動にも力を注ぎ活動する。

●みせるばやお(大阪府)

多彩な「ものづくりワークショップ」を通じてのものづくりの魅力、ものづくりを担う企業の魅力を発信していく施設である。中小企業1社では持つことのできないスペースやヒト、リソース、データをシェアリングでき、その中でお互いを理解・信頼し、

交流を深めて協働する。そこから新しいコラボレーションを生み出し、イノベーションを起こすことで地域貢献や地域ブランディングへと繋げる拠点となる。

●労働者協同組合甲南げんき村(兵庫県)

阪神淡路大震災から30年、地域の課題は深刻である。全世代で、孤独、孤立が進行、引きこもり、不登校など家庭、学校の機能が低下し、課題が山積状態。なんとか、自分の居場所ができ、多世代の交流が深まり、ゆるやかなつながりが生まれる地域づくりが緊急の課題である。東灘こどもカフェで15年間活動してきたが、一つの団体の活動では限界があることから、地域の16団体が協同して、「地域がつながる」大きな課題に挑戦している。

●特定非営利活動法人奥播磨夢倶楽部

(兵庫県)

兵庫県宍粟市で、2016年から築約130年の茅葺き古民家を活用した研修受入れや交流事業、森の保全、資源を使ったオリジナルのワークショップを継続して取組んできた。2024年度からは、「森のエコカフェ」を開設。多様な人材とつながり、茅葺き古民家の継承と資源活用に取組み、令和版結を構成し、楽しみながらやりがいを感じられる次世代へ繋ぐ農村の新しいかたちを創り出している。



大道田まちづくり支援の会



大島小学校区まちづくり協議会



松山市自主防災組織ネットワーク会議



JMT大作戦実行委員会

●大島小学校区まちづくり協議会(兵庫県)

大都市圏域近郊の中山間地域である兵庫県猪名川町の大島地区は、都市部への人口流出が激しい。この状況を何とかしようと、小学校を中心とした地域コミュニティの醸成に取り組んできた。約5年前から活性化計画を作成し、その中の一つとして移住の取り組みを進めている。地域主体を基本としつつ、行政や専門家、協力者との「緩やかな連携」のもとに、着実な取り組みを進めている。

●JMT大作戦実行委員会(和歌山県)

和歌山県かつらぎ町の主婦3人が立ち上げた本会は、地域の活性化を目指し、マルシェやイベントを企画・開催。住民の交流や出番を創出し、地域全体のつながりを深めてきた。活動は年々拡大し、現在は4年目。他地域との連携も視野に入れ、「じもと」を超えて人々が集う場づくりを続けている。

●大道田まちづくり支援の会(広島県)

風水害の危険区域にある団地は豪雨時に治山ダムからの排水被害を防ぐ必要がある。平成30年の西日本豪雨災害や地球温暖化が顕著な状況から、今まで通りの対応では被害が懸念されたため、ダム下の雑木を伐採して花木広場にすれば地域住民の意識も変わり、コミュニティ広場になることで減災のための維持管理が継続可能になるので

は？の思いを持ち、自治会で検討した結果、志を同じくする団体「大道田まちづくり支援の会」を令和3年に立ち上げ4年かけて作業を実施し、「花とみどりの夢広場」を造成することができた。今後は維持管理が継続できる体制作りを図る。

●松山市自主防災組織ネットワーク会議(愛媛県)

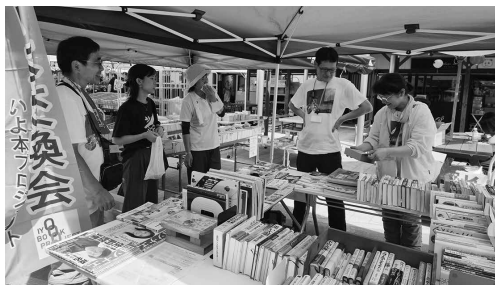
平成20年に設立され、住民主体の地域防災力の強化を目指し活動。市内41地区の自主防災組織連合会を集約し、ネットワークを構築している。松山市では令和6年に市区町村別で全国初となる防災士数1万人を達成しているが、自主防災組織からの防災士資格取得を推進するなど同会議も大きく貢献。また、研修会や講習会を開催し防災知識を深めるとともに、地域間のネットワークを強化するなど、実践的な防災力を向上させている。市民参加型の防災シンポジウムを開催し、市域全体の防災力の向上にも力を入れる。

●いよ本プロジェクト運営委員会(愛媛県)

「本と人をつなぐ、本をとおして人と人をつなぐこと」を目的に、平成31年1月から活動を始めた。本を持ち寄り紹介し合う「紹介型読書会」や、本が交換できる「古本交換会」の開催、私設図書館ビブリオAの運営、伊予市に住む人や関わる人・約100人が



脊振の自然を愛する会



いよ本プロジェクト運営委員会



特定非営利活動法人こそだて支援comono



こころふくよか

お勧め本を紹介する冊子『いよし百冊物語』『いよし百冊物語2』の発行が主な活動である。公民館や地域団体、小中学校などと連携し、伊予市内全域で本にまつわる活動を行っている。

●こころふくよか(福岡県)

主に次の活動に取り組む。①「こころふくよかカフェ」は毎週火曜・木曜および第2・第4金曜に開催。社会につながっていない人への居場所を提供。②「こころふくよか食堂」は毎月第2土曜に夕食会、第4日曜に昼食会を開催。希望により会食、お弁当受け取りを選べる。食品配付は上記①の対象者に加え、ひとり親家庭、生活困窮者が利用。③「相談活動」は、不登校や就労困難な子ども、若者やその家族からの相談に対応。④「子ども、若者の活躍の場づくり」は、毎週水曜に農作業体験を実施。農産物加工品づくり体験も行う。

●脊振の自然を愛する会(福岡県)

2008年～2013年の5年間、福岡市早良区役所と西南学院大学ワンダーフォーゲル部OB OGと協働で、脊振山系の登山道に道標と登山地図を70か所設置した。その活動を継承し2012年に脊振の自然を愛する会を設立。以後、山開きや清掃登山を行うなど登山者への安全登山啓蒙活動を行ってきた。またドコモ九州の協力

を得てレスキューポイントを27か所設置。追加で小型道標プレートも90か所設置。行政や大学や関係機関を交え脊振サミットを行うなど、脊振山系の魅力発信に貢献している。

●特定非営利活動法人こそだて支援 comono (鹿児島県および埼玉県)

鹿児島県屋久島町及び埼玉県狭山市の妊娠から産後1年までの人または1歳までの赤ちゃんがいる家族を対象に弁当宅配を行っている。弁当は午前中に注文を受け、その日の午後に子育て経験をもつメンバーが届ける。玄関先で顔を合わせての弁当手渡しにこたわり、立ち話でストレスや悩みを共有・共感すると共に、実体験を含めた子育て情報を提供して、孤立感の解消を図っている。狭山市では助産師訪問も行っており、専門性の高い相談にも対応。共有・共感だけでは解決できない悩みや課題は、専門窓口に繋ぎアウトリーチの役割を果たしている。

